

## 特別の教育課程編成・実施報告書

香川 都・道・府・ <b>県</b>			
学 校 名	管 理 機 関 名	設 置 者 の 別	校 種
直島町立直島中学校	直島町教育委員会	国・ <b>公</b> ・私	小・ <b>中</b> ・高・中等

## 1 特別の教育課程の編成

## (1) 特別の教育課程の概要

中学校第1～3学年の外国語の年間時数を増やし、中学校学習指導要領第2章第9節外国語に定める内容事項に加え、小中連携を意図して独自に開発した単元や、総合的な学習の時間と関連させた地域発信型単元などに取り組み、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を統合的に活用したコミュニケーション能力の育成を目指す。

## (2) 必要となる教育課程の基準の特例

中学校第1～3学年の外国語を年間160時間とする。

(外国語140時間に、新たに「総合的な学習の時間」から20時間を充てる。)

## (3) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

直島町は、瀬戸内海の小さな島にあり、小・中学校はへき地1級の学校である。児童・生徒は明るく素直であるが、長い間、「表現力の育成」が課題であった。近年、直島は「現代アートの島」として世界の注目を集め、国内外から多くの観光客を迎えるようになり、日常的に外国人を見かけるようになった。そのような中、現在の生徒達は、異なる文化や考え方もつ人々と交流していく機会が多くなっている。

直島町では、昭和63年度から町独自に外国語指導助手(ALT)を雇用して英語教育に取り組み、過去3回文部科学省指定研究開発学校として研究を推進してきた。平成23～25年度には、小・中学校が文部科学省指定研究開発学校として、特に小学校、中学校、高等学校の学習内容のつながりの中で、将来の小中連携を含む英語教育の在り方について研究した。研究主題を「コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成」と設定した。

小学校においては、英語が教科化になるよりも以前の平成27年度より、第5・6学年で週2時間、第3・4学年で週1時間の新設教科「外国語」を、第1・2学年で週1時間の「外国語活動」を設定して英語教育に取り組んできた。連携して作成した新直島ティーチングプランを基盤として、中学校では外国語の時数を増やし、デジタル教科書や一人一台端末を活用して英語をいかに学習するかという観点から目標を具体化し、これまでの研究成果を生かしながら、小学校との連携をさらに深化させていきたい。

令和6年度においても、令和5年度に引き続き、教育課程特例校として、今までの取組を継続しており、グローバル化社会に対応できる生徒を育成するために、小・中学校を通じて一貫した学習到達目標を設定した指導の在り方について研究を推進している。昨年度より、生徒のタブレットに学習者用デジタル教科書を導入し、音と文字を関連させて理解できるよう、一人ひとりに応じた学習の個性化を図ることができるツールとして活用することができた。次年度からもICTを利活用しながら、「話すこと」・「書くこと」の2技能を結び付けた学習に取り組んでいきたい。

## 2 取組期間

・特例の適用開始日 : 令和4年4月1日 (3年おきの申請をせずに、特例校として継続できることとなった。研究を積み重ね、3年おきに研究の発表を行うこととする。)

### 3 特別の教育課程に基づく教育の実施状況

#### (1) 実施体制

学 年	場 所	指 導 者		
		T 1	ALT	T 2
第1学年		学級担任	ALT	児童支援： 学年団教員
第2学年		学級担任	ALT	
第3学年		学級担任	ALT	
第4学年		学級担任	ALT	
第5学年	【小学校国際理解教室】	小学校外国語専科	ALT	児童支援：学級担任
第6学年		中学校外国語教員	ALT	児童支援：学級担任
第7学年(中1)		中学校外国語教員	(ALT)	中学校外国語教員
第8学年(中2)		中学校外国語教員	(ALT)	中学校外国語教員
第9学年(中3)		中学校外国語教員	(ALT)	中学校外国語教員

#### (2) 指導計画及び授業の内容

中学校卒業段階で、「自分たちのことや地域のことを話題にして英語でやりとりができる」生徒の姿を目指して、下記について配慮し実施した。

##### ① 入門期の学習の工夫

小学校段階の「音と文字をつなげる活動」を踏まえて、中学校1年生でも「音韻認識」や「音素認識」を高める活動を行った。音と文字をつなげる活動にゲーム形式やゲーム感覚を取り入れ、単語を読む際も、教師の発音をリピートさせるのではなく、まず文字を見て生徒自ら読ませるようにし、読みづらかった単語に比重をかけて発音指導するなど工夫した。

##### ② 小学校英語とのつながりを意識した言語活動の工夫

小学校における教科「外国語」が全面実施され5年目となった。小学校6年生の単元指導計画に中学校教員が携わり授業をすることで、小学校英語の学習内容の正確な把握が今まで以上に可能になった。中学校では、小学校で学んだ言語材料を定着させるために、さまざまな言語活動において、小学校での学習内容を適切な時期に自然な流れの中で繰り返し使用させるなどして、小中の円滑な接続を図ることができるよう工夫する。特に、日々の帯活動を大切に言語活動を行った。

##### ③ まとまりのある内容を話したり、即興でやり取りしたりする言語活動の工夫

コミュニケーションの目的や場面、状況を意識した具体的な課題を設定し、まとまりのある内容を話す（発表する）機会を与えた。相手意識や目的意識を大切にし、自分が聞き手であったら何を聞きたいかを考えさせたり、理解を確認しながら話をさせたりした。やり取りについては、コミュニケーション・ストラテジーの指導をしたり、簡単なメモだけを見てチャットさせたりした。全体でフィードバックし、どう対話を継続・発展したらよいか考えさせた後、再度、相手を変えてチャットさせるなど、繰り返し言語材料を使わせる場面を設定し改善を図った。さらに、教師からだけでなく、生徒同士の間評価も大切にしながら言語活動を行った。

#### ④ 地域発信型単元の開発

毎年、小・中学校が連携して、「Meet the World」を設定し、教科や総合的な学習の時間など既習の学習内容と関連させながら、地域をテーマに発信する言語活動をしてきた。本年度も、午前中に県内からの21名のALTを招いて、「Meet the World」を開催することができた。

※「Meet the World」とは、直島小・中学校の児童生徒と県内外のALTが交流する行事である。

#### (3) 児童・生徒への教育上適切な配慮及び保護者への配慮

##### ① 児童又は生徒の発達の段階並びに各教科等の内容の系統性及び体系性への配慮

中学校では、中学校学習指導要領第2章第9節外国語に定める内容事項に加え、小学校の外国語活動及び教科「外国語」で育まれた英語でのコミュニケーション能力の素地をもとに、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を統合的に活用したコミュニケーション能力の育成を目指した。その際、英語教育において小中連携を充実し、小学校で実施している内容を十分に踏まえて、生徒の発達の段階にあわせた内容等を取り扱うよう配慮した。また、小・中学校が連携して年間指導計画等の作成や系統性の吟味を行い、無理のない教育課程を編成して実施した。

##### ② 保護者の経済的負担への配慮その他の義務教育における機会均等の観点からの適切な配慮（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部において特別の教育課程を編成・実施する場合のみ記載）

保護者の経済的負担への配慮その他の義務教育における機会均等の観点でも最大限配慮し、保護者の理解と協力のもと英語教育を推進したので、経済的負担にはなっていない。

##### ③ 児童又は生徒の教育課程特例校への転出入に対する配慮

生徒の転出入に当たっては、当該学校と連絡を取り教育課程上の配慮をした。転入時には、転入生徒は従来の教育課程の学習を行っているため、未履修の内容については、個別に対応した。また、転出時も同様に、転出先学校と連絡を取り、履修内容を確認後、個別に対応した。

#### (4) 情報提供の状況（詳細は別添資料参照）

① 県内の中学校からの参加者と指導者、そして直島小中学校教員に年2回の校内研究授業を行った。

② 実際に来られたALTに対して、小5と中1、小6と中2、そして中3はsupervisor的な役割としてグループに分かれて直島の「家プロジェクト」と「ベネッセアートサイト」の作品やレストランなどについて、「Meet the World」にて英語で発表をした。

### 4 実施の効果、課題と今後の取組

#### (1) 実施による効果

生徒は英語を系統的・継続的に学び、標準学力調査（CRT）（全学年対象）において顕著な成果が出ている。また、学校全体で英語検定受検を推進し、3級以上取得率において、県が求める目標数値をほぼ達成できている。（別添資料参照）

#### (2) 課題と今後の取組

① 直島小学校と連携を図り、オリジナルの外国語学習指導指針に教科書教材との関連を図り、完成した新直島小・中学校外国語学習指導指針（「New Teaching Plan」）を活用して、指導方法の検討と次年度からの新しい目標を立てて研究の推進に努めていきたい。

② 教職員が約3年周期で異動となる中で、今後も円滑な小中連携を目指し、系統的・継続的な質の高い授業を維持するために、教員研修の充実や教材開発の在り方を検討する。

## 【特別の教育課程を編成・実施する学校一覧】

(小学校 1 校、中学校 1 校、高等学校 校、中等教育学校 校)

学校名	設置者の別	学校種
直島町立直島小学校	公立	小学校

※複数校が同一の「特別の教育課程編成・実施計画により特別の教育課程を編成・実施している場合、その学校名をすべて記載する。

## 【担当者】

## 1. 管理機関

名称	直島町教育委員会
住所	〒761-3110 香川県香川郡直島町 1122-1
連絡先	電話番号 087-892-2882 FAX番号 087-892-3888 E-mail zyn3579@town.naoshima.lg.jp
担当者	所属・職名 直島町教育委員会次長補佐 大谷 章人

## 2. 都道府県教育委員会/都道府県私立学校主管課

名称	香川県教育委員会 義務教育課
住所	〒760-8582 香川県高松市天神前6番1号
連絡先	電話番号 087-832-3741 FAX番号 087-806-0231 E-mail
担当者	所属・職名 香川県教育委員会義務教育課 指導主事 澁田 泰誠

直島町立直島中学校 教育課程表

区 分	各 教 科 の 授 業 時 数									道徳の授業時数	総合的な学習の時間の授業時数	特別活動の授業時数	新設教科等の授業時数	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	160 (+20)	35	30 (-20)	35		1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	160 (+20)	35	50 (-20)	35		1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	160 (+20)	35	50 (-20)	35		1015
合 計	385	350	385	385	115	115	315	175	480 (+60)	105	130 (-60)	105		3045

\* 1 標準授業時数と異なる授業時数を設定する教科等については、標準授業時数からの増減を（ ）で記入し、網掛けにすること。

\* 2 英語による教育（いわゆるイマージョン教育）を行う場合には、標準授業時数や増減時数の下にアンダーラインを引くこと。

# 第1学年1組 英語科学習指導案

授業者 教諭 白井 李佳  
教諭 山下 愛  
ALT Charlie Blows

1 日時 令和6年10月18日(金) 第5校時(14:00~14:50)

2 場所 英語教室

3 単元名 Unit7 Foreign Artists in Japan (NEW HORIZON English Course 1)

4 単元について

本単元では、日本で活躍する外国人芸術家について考えるために、前単元で習った3単現の文を用いて、ALTの先生や級友に海外で活躍する日本人について紹介したり、紹介文を書いたりすることができる。言語材料として、Unit6で学習した3単現の形だけでなく、今までに学習した文法や表現を扱うことができる。本時は、学習者用デジタル教科書を用いて、自分に適した習熟度で教科書の重要表現を学習し、基礎を固めた上で、自分の紹介したい人物について必要な情報を用いて、その情報や自分の思いを相手に伝える活動を行う。聞き手を意識した上で、どのような表現を用いれば相手により伝わるかということを考えながら、必要な情報を活用して紹介文を作っていくという態度を育成することができる。また、既習の表現や文法を用いながら、自分の思いを込めながら紹介したい人物を相手に伝えるという、学んだことを生かして活用する態度を育成することにもつなげたい。

5 学級について

本学級1年1組の生徒は、小学生の頃から外国語活動や英語の授業に対する意欲が高く、英語でコミュニケーションをとろうと主体的に活動することができる。そのため、帯活動のpair talkなどの英語で「聞くこと」「話すこと」の活動に積極的に取り組んでいる。しかし、それに伴い話したことを書いて表現することや「書くこと」自体に苦手意識を持つ生徒が多い。Pair Talkでは「自己紹介」や「夏休みの思い出」など、自分にとって身近な話題について話し、内容を深めるために自分たちで書く時のポイントや、使える単語・文法などを共有し合う。その共有したことをもとに「書くこと」につなげていく。このように「話すこと」と「書くこと」を関連付けた活動を取り入れ、級友と交流しながら学び合える機会につなげたい。

6 指導にあたって

以上のような学級の実態を踏まえた上で、以下の点に留意する。

- ① Power Point やその中にあるコメント機能を使って、書く際のポイントをクラス全体で共有し、効果的にタブレットを活用させる。
- ② 学習者用デジタル教科書を活用して、生徒一人ひとりの習熟度に応じた支援・指導を行う。
- ③ 既習事項を用いて、海外で活躍する日本人を紹介できるよう、教え合いながら文章をより良いものにできるようにする。

7 単元の目標

- ・ 収集した情報をもとに既習の表現や文法を使って、文を作ることができる。(知識・技能)
- ・ 聞き手を意識したより良い文章になるよう、ペアで教え合ったり、全体で共有したりしてブラッシュアップすることができる。(思考・判断・表現)
- ・ 学習者用デジタル教科書を活用して、前時の学習内容の振り返りを自分に適した学習方法で行うことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
収集した情報をもとに既習の表現や文法を使って、文を作っている。	ペアでの教え合いや全体での共有を生かして、自分の紹介文を改善している。	デジタル教科書を発音や内容理解などに活用して、意欲的に学習に取り組もうとしている。

9 学習指導計画

- ・ 日本で活躍する外国人芸術家について知り、代名詞を使って「彼を／彼女を」知っている？とたずね合う 1 時間
- ・ 「どちらが好きですか？」究極の2択を友だちとたずね合う。・・・1 時間
- ・ 日本（直島）で活躍するチャーリー先生にインタビューし、その情報を用いて、海外で活躍する日本人をチャーリー先生に紹介する文を書く。・・・2/2 時間（本時）
- ・ チャーリー先生や友だちに、海外で活躍する日本人を紹介する。・・・1 時間
- ・ だれのものかを当てるクイズを作って、友だちとクイズを出し合う。・・・1 時間
- ・ ダイアン吉日さんの落語を聞いて、落語について理解を深める。・・・1 時間
- ・ 落語公演にきたメグと海斗の会話を聞いて、何のハプニングが起こったか考える。・・・1 時間

10 本時の学習指導

(1) 目標

- 既習の表現や文法を用いて、海外で活躍する日本人についての紹介文を書くことができる。
- 全体共有や教え合いを通して、紹介文をより良いものにすることができる。

(2) 準備物 教科書、タブレット、ワークシート、辞書（英和・和英）

(3) 学習指導過程

時間	学習活動と学習内容	教師の指導・助言および支援活動	評価
5分	1 pair talk をする。 (1) Who is this man/woman?クイズを出す。 (2) 2分間で話したことを書く。	○ どのように言ったり、書いたりすればいいのかわからないときは、Word Bank や教科書を見て、活用するよう促す。	【思考・判断・表現】 (ワークシート)
10分	2 前時の学習事項を確認する。 (1) 音読練習（シャドーイング） (2) マスク機能を使って、音読 (3) ペアで（2）を行う (4) ディクテーションをする。	○ 読み上げ機能を利用し、各自のペースで音読練習をさせる。 ○ 自分に適したレベルのマスク機能を選択し、ペアで読み合わせをさせる。 ○ 音と文字のつながりを意識させる。	【主体的に学習に取り組む態度】 (活動の観察) 【知識・技能】 (ノート)
	海外で活躍する日本人をチャーリー先生に紹介するために、紹介文を完成させよう。		
30分	3 チャーリー先生が日本で活躍している外国人について紹介するのを聞いて、自分の紹介文にどのようにつけ足していけばいいのかわかる。	○ ALT の例を聞いて、自分たちが行く紹介で何が必要なのかという構成や表現に気づかせる。また、今まで習った表現で使えるものを振り返らせる。	【知識・技能】 (活動の観察)
	4 紹介文を書く。	○ どのように書けばいいか悩んでいたら、教科書や Word Bank を使って書くように促す。	【思考・判断・表現】 (ワークシート) (活動の観察)
	5 ペアで紹介し合う。	○ 教科書や Word Bank を参考に、真似したい点やどのように改善すればいいのかわかるを話し合っ、紹介文をブラッシュアップする。	【思考・判断・表現】 (活動の観察)
	6 全体共有	○ 真似したい点やどのように改善すればいいのかわからない点などを例に挙げながら、全体で共有する。	【思考・判断・表現】 (活動の観察)
	7 もう一度紹介文を書く。	○ 改善できた文を紹介する。	
	8 発表に向けての見通しをもつ。	○ 次時ではチャーリー先生や級友に紹介することを伝える。	

(4) 評価

- ・ 全体共有や教え合いを通して、紹介文をより良いものにできたか。（活動の観察）
- ・ 海外で活躍する日本人をチャーリー先生に紹介する文を書くことができたか。（ワークシート）

# 第3学年1組 英語科学習指導案

授業者 教諭 山下 愛  
教諭 白井 李佳  
ALT Nahass Benjamin

1 日時 令和6年6月27日(木) 第5校時(14:00~14:50)

2 場所 英語教室

3 単元名 Let's Talk 1 はじめての出会い—歓迎する— (NEW HORIZON English Course 3)

## 4 単元について

本単元では、海外でも愛される日本の魅力を知り、言語や文化のちがいについて考え、相手の立場や状況に合った会話をするのできる単元である。初対面の相手に配慮しながら、歓迎する気持ちを伝えることができる。言語材料として、Unit1・2で学習した現在完了形だけでなく今までに学習した表現を場面や状況に応じて扱うことができる。本時は、学習者用デジタル教科書を用いて、自分に適した習熟度で教科書の重要表現を学習し、基礎を固めた上で、生徒にとって身近な日常生活の一場面としてとらえやすい、直島など身近な場所であらう外国人と相手に配慮した即興でのやりとりに発展していく活動にふさわしい単元である。積極的に相手を理解しようしたり、相手に伝わりやすく工夫したりしようという態度を育成することができる。自然な会話をつなげるために既習の表現を取り入れるなどして、より実際の場面で使うことができるように生徒が工夫できる題材である。

## 5 学級について

本学級3年1組20名の生徒は、小学生の頃から英語で表現する活動に対する意欲が高く、英語でコミュニケーションをとろうと主体的に取り組むことができる。そのため、帯活動のペアトークなどの英語で即興で「話すこと」「聞くこと」の活動に積極的に取り組んでいる。しかし、単語を正しく書いたり、正しい語順で文章を作ったりすることに、苦手意識をもっている生徒が多い。そのため、身近な話題に関して30秒間で話したことを、英語で書く trio-conversation では、「話すこと」と「書くこと」を関連付けた活動を取り入れている。英語で話す楽しさや自分の考えや思いを伝える大切さを感じさせながら「書くこと」の力を育成されることを期待したい。また、ペアや3人グループで行う活動を通して、級友と交流しながら学び合える機会につなげたい。

## 6 指導にあたって

以上のような学級の実態を踏まえた上で、以下の点に留意する。

- ① 帯活動として、3人で行う trio-conversation を通して、既習事項を繰り返し使う機会を設け、「話すこと」と「書くこと」を関連させる。
- ② 学習者用デジタル教科書を活用して、生徒一人ひとりの習熟度に応じた支援・指導を行う。
- ③ 教科書の重要表現だけでなく、実際の場面でどのようなやりとりがされるか生徒が想定して会話ができるように、場面設定を行う。

## 7 単元の目標

- ・ 初対面の人に歓迎の気持ちを伝えるときに使う重要表現の意味や働きについて理解できる。(知識・技能)
- ・ 歓迎の気持ちや自分のことを相手に伝えたり、たずねたりできる。(思考・判断・表現)
- ・ 学習者用デジタル教科書を活用して、前時の学習内容の振り返りを自分に適した学習方法で取り組むことができる。また、友だちとのやりとりをもとに、改善点を考えることができる。

(主体的に学習に取り組む態度)

## 8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
初対面の人に歓迎の気持ちを伝える表現を理解し、重要表現を使うことができる。	出会う場面や人に合った歓迎の気持ちを表したり、自分のことを相手に伝えたり、相手のことをたずねたりすることができる。	学習者用デジタル教科書を発音や内容理解に活用して、意欲的に学習に取り組もうとしている。既習事項を用いてたずねたり、答えたりしようとしている。

9 学習指導計画

- ・ 歓迎の気持ちを伝える表現や相手に質問したり答えたりする表現の意味や働きを理解する。・・・1時間
- ・ 初対面の人と出会う場面に合った、歓迎の気持ちや、自分のことを伝えたり相手にたずねたりする。・・・1時間 (本時)

10 本時の学習指導

- (1) 目標 ① 学習者用デジタル教科書を活用して、自分に適した習熟度で重要表現を学習し、音と文字を関連させて理解することができる。
- ② 初対面の相手と即興性のあるロールプレイで、実際のような場面や状況を想定し、それらに合った歓迎の言葉を伝えたり、自分のことを伝えたり相手に質問したりできる。
- (2) 準備物 教科書、ノート、タブレット、ワークシート、辞書 (英和・和英)
- (3) 学習指導過程

時間	学習活動と学習内容	教師の指導・助言および支援活動	評価
5分	1 Warm-up をする。 trio-conversation をする。 (1) 30秒間で私の「〇〇歴」を伝え合う。 (2) 1分間で話したことを書く。	○英語を学ぶ雰囲気作りを行う。 ○分からない表現については、ALTや級友に尋ねる。 ○相づちなどを入れて会話を円滑に進めるようアドバイスする。	【思考・判断・表現】 (ワークシート)
10分	2 前時の学習事項を確認する。 (1) 音読練習 (シャドーイング) (2) マスク機能を使って、音読 (3) ペアで (2) を行う。 (4) ディクテーションをする。	○読み上げ機能を利用し、各自のペースで音読練習をさせる。 ○自分に適したレベルのマスク機能を選択し、ペアトークをさせる。 ○音と文字のつながりを意識させる。	【主体的に学習に取り組む態度】 (活動の観察) 【知識・技能】 (ノート)
初対面の相手に合ったおもてなしをしよう。			
5分	3 重要表現を用いて練習する。 (1) ALTに出題される場面でのような歓迎の言葉を伝えるか考える。 (2) ペアで練習する。 (3) より「おもてなし」できるよう、どのような会話ができるか考える。(表現)	○ワークシートを参考に、ペアで確認するよう指示する。 ○難しい表現も既習事項を使って英語にするよう伝える。	【主体的に学習に取り組む態度】 (活動の観察)
25分	4 即興性のあるロールプレイをする。 (1) 一人がカードを引き、その立場や状況になりきり、会話を する。 (2) 中間指導をする。 (3) 共有したことをもとに、2人ペアで質問したり、答えたりする。	○実際に直島で遭遇しそうな、様々な相手(立場)や場面を示すことで実際の状況を想像できるようにする。 ○ペアは「おもてなし」満足度を評価して、シールを渡す。 ○良かった点や改善点をグループや全体で共有して、次のやりとりに生かす。 ○反応をしたり質問をしたりしながら意思疎通することを意識させる。	【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 (活動の観察)
5分	5 振り返りをする。	○重要表現を使い、積極的に伝えることができたかどうか確認する。 ○時間があればロールプレイで使った重要表現を書くよう指示する。	【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート)

(4) 評価

- ・ 重要表現を用いて、歓迎の言葉を伝えたり、相手と会話を広げたりすることができたか。(活動の観察)
- ・ グループでロールプレイをふり返り、良かった点や改善点を考えることができたか。  
(活動の観察、ワークシート)